

7) その他 (DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率)

【その他 (DIC (注1*))、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率) の集計方法と定義】

DIC (播種性血管内凝固症候群)、敗血症、その他の真菌症、手術・処置等の合併症の症例数と発生率について、DPC病名 (入院期間中、最も医療資源を投入した病名) と入院契機病名 (入院のきっかけとなった病名) が「同一」か「異なる」に分けて集計してる。

DPC病名と入院契機が「同一」の場合は、ある病気の診療目的で入院し、その病気の治療を行ったということを表し、DPC病名と入院契機が「異なる」場合は、ある病気の診療目的で入院したが、入院時より併発していた、もしくは入院中に違う病気が発症し、その治療が主となってしまった場合を表す。

※DIC (播種性血管内凝固) とは

全身の血管内で小さな血栓が発生し、血管を詰まらせ、臓器不全などを引き起こす全身性の重篤な病気です。血液凝固が増加することで出血の抑制に必要な血小板と凝固因子を使い果たし、大量出血を引き起こす場合もある。

※敗血症とは

感染症をきっかけに病原菌が血液の中に入り、全身に症状が現れる重篤な臓器障害です。

※その他の真菌症 (真菌感染症) とは

真菌 (カビ) による感染症です。代表的な真菌症として、白癬菌による白癬 (水虫、たむし)、カンジダによるカンジダ症などがある。

※手術・術後の合併症とは

手術や処置などに一定割合で発生する病態です。主な術後合併症として、術後出血、縫合不全、術後疼痛、術後感染症などがあります。合併症は、どのような術式でもどのような患者でも、一定の確率で起こり得るものです。

※集計条件および集計項目は、厚生労働省が定める最新の「病院情報の公表の集計条件等について」に準じている。

【出典】

DPC導入の影響評価に係る調査関連情報ホームページ
機能評価係数Ⅱの保険診療指数における「病院情報の公表」
に関する資料 <http://www.prrism.com/dpc/2026/top.html>

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	3	0.02%
		異なる	22	0.16%
180010	敗血症	同一	24	0.17%
		異なる	22	0.16%
180035	その他の真菌感染症	同一	3	0.02%
		異なる	3	0.02%
180040	手術・処置等の合併症	同一	17	0.12%
		異なる	2	0.01%

【解説】

肝損傷などの重篤な外傷や、肝臓がんや膵がん、肺がんあるいは心臓血管外科疾患などの大手術後に血液の凝固に異常をきたす播種性血管内凝固症候群が起こることがあります。また、色々な感染症などから血液中に病原菌が入り敗血症になり、これが原因で播種性血管内凝固症候群が起こることもあります。

当院は数多くの併存症を持った患者さんの手術を行っているため、術後に播種性血管内凝固症候群を合併することもあります。また、妊娠早期に起きる胎盤剥離などの女性の出産に関わる病気から播種性血管内凝固症候群を合併した患者さんが治療目的で入院する場合も多くあります。

ここに示している症例数の「入院契機と同一」とは、入院時に播種性血管内凝固症候群と診断されている患者さんであり、「入院契機と異なる」とは、入院時には別の病気で入院したが、その後に播種性血管内凝固症候群を起こし、元々の病気の治療よりも播種性血管内凝固症候群の治療に時間を要する場合を示しております。

播種性血管内凝固症候群や敗血症の入院患者数は年々減少傾向となっておりますが、術後等に発生した場合には、元々の病気の方を傷病名にするようにしたためです。

手術・処置等の合併症では、腎・高血圧内科の入院治療で、透析を行うために必要なシャントが血栓などで閉塞し使用できなくなり、その治療（経皮的シャント拡張術・血栓除去術）目的で入院する患者さんや外科的術野における縫合不全の患者さんが多いためです。